

## 県産スギ心去り正角材の性能評価

### 1 背景・目的

県内スギ人工林の高齢級化が進み、柱適寸丸太が不足気味となる一方で、大径材については、価値を高める新たな用途開発が求められている。このため、大径丸太から複数の心去り正角材を製材し(図1)、製材の際の挽曲がり(成長応力の解放により湾曲する)とその抑制法の検討及び各種強度試験によって建築用材としての性能を検討する。

### 2 技術のポイント

- (1) 製材時の歩増し量を従来の15mmから20mmに変え、さらに人工乾燥時の栈積みに重しをかけることにより製品率が向上する。(図2)
- (2) 心去り正角材の曲げ強度と圧縮強度は概ね基準強度に達しており、心持ち正角と同等かそれ以上の強度性能を有している。(図3、4)



図1 心去り正角材 (右)

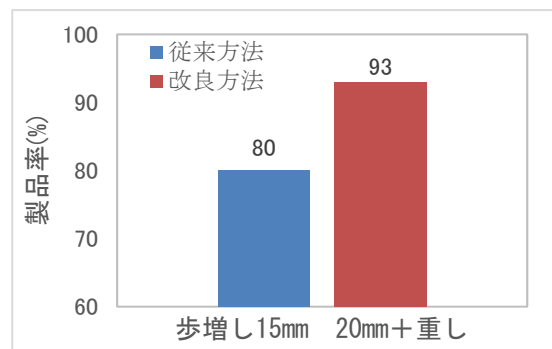


図2 歩増しと重しによる製品率の改善

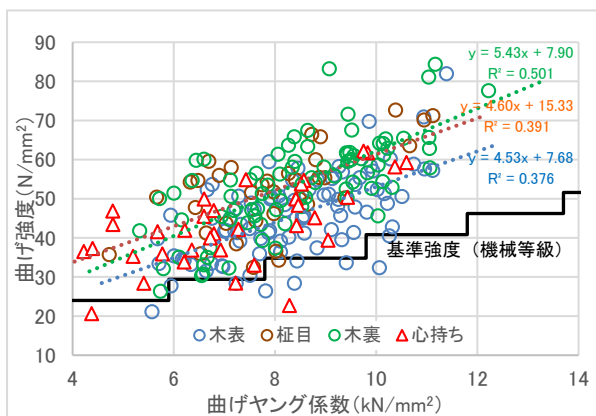


図3 曲げ強度試験結果

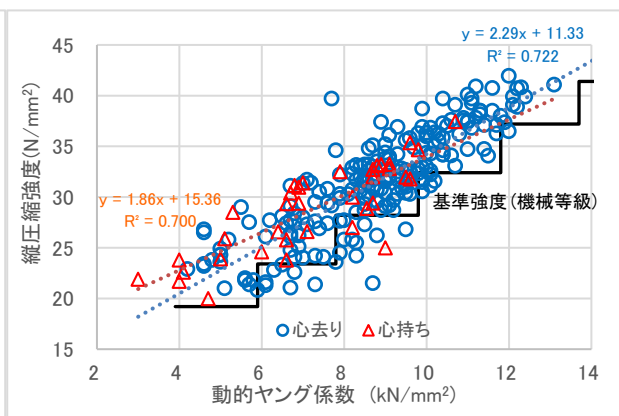


図4 縦圧縮強度試験結果

### 3 成果の活用と残された問題点

- (1) 木材加工事業者の製材・乾燥時における普及資料となる。
- (2) 心去り正角材使用中の経年変形について検証が必要である。